

甘えない

自分のことは
自分で



ヒトのせい
じゃあないよ

苦しいけど

楽しい

山登り

自分で自分を甘やかす

人間というのは一生成長することができるようですが、「もうこんなもんでいいや」という限界はないのですね。でも、しかし時として「自分で自分を甘やかしたい」時もあります。気分にかけてしまうのです。疲れて休みたい時はそういう必要もあります。でも、ずっといつても「自分で自分を甘やかして」いたのではどうにも気分もスッキリしません。気分がスッキリしない時には「自分で自分を甘やかしていないか」と振り返ってみるのもいいですね。自分と真正面に向かい合って。では、「甘え」とはどういうものでしょうか？逃げ腰、ゴマカシ、イイカゲンですね。

大人にも子どもにも共通する人生の宿題なのでしょう。要するに「自分を甘やかす」という事は、自分に対しての厳しさに手加減するという事でしよう。三つの鍵のふたつ目「イヤなことは避けないで」というのは「イヤだ」という気持ちと「自分」の本体とは別ものだという事です。「イヤだからやらない」というのは気分にかけてしまう「自分」です。「イヤだ」と思ってもやらなきゃあならない事ならやる」と言うのは「イヤだ」と思っている自分そのまま、やる」という事です。そこに成長があります。

人任せにしないか

「甘えない」という事は、ある種類の人たちにはとても伝えにくいことです。それは、「自分は甘えていない」と思っている

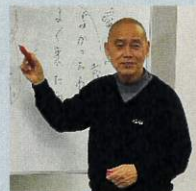
からです。では自分の人生の出来事を「人のせい」とか「人任せ」とかにしていないかと問うようにしてみてください。「生活」のこと「仕事」のこと「健康」のこと「人間関係」のこと「人生の道」を考えて自己の進歩成長を確かなものにしたいのなら、甘えてばかりはいられません。

僕の場合は甘い人生を過ごしていました。ある時気がついたのですが「8割人間」だったのです。中学生の時に同室に暮らす一夫ちゃんは常に120%でやっていたので、僕の甘さは際立っていました。それで気がついたのです「僕は8割人間だった」と。甘いですね。

努力を惜しむ

ケチケチして努力の出し惜しみをすると「努力をしない」という結果になります。「努力」というのは「力の出し惜しみをしない」という事です。完璧でなくてもいいのですよ。少しずつでもいいのですよ。やれることからやって行けば結果としてそれが「努力」になり「甘え」を克服していることになるのです。病気や障害のせいにしないで生き切っている人が僕には励みになっています。

和田重良（山の茂吉）



1948年 小田原市生まれ。
東京教育大学現筑波大学卒。
1978年、「くだけかけ会」をはじめ。神奈川県丹沢山中のくだけかけ生活舎において、多くの青少年たちと共同生活を実践してきたことを基盤に、これからの子どもたちの心を豊かに育むための提言を発信し続けている。
中田新聞にコラム「SYD月刊」愛に掲載中。
「両手で生きる」悩める14歳」など著書多数。